

実社会対応プログラム(課題設定型研究テーマ)

- ◆課題(研究領域):「非常時における適切な対応を可能とする社会システムの在り方」
- ◆研究テーマ:「非常時における適切な対応を可能とする社会システムの在り方に関する社会科学的研究」

研究期間:H25.10~H27.9

委託費総額:20,000千円

<研究代表者>

齊藤誠:一橋大学大学院経済学研究科/教授

<専門分野>

マクロ経済学、金融論

<Webページ>

<http://www.econ.hit-u.ac.jp/~makoto/>

<研究目的・概要>

・非常時に適切な対応を展開することは困難である。



社会が直面するリスクに関して、事前にどのような合意形成が必要であるかを実証的・理論的に研究する。

- ・東日本大震災を事例とした検証と考察
- ・平時における非常時に向けての合意形成の進め方を検討
- ・非常時における国家の財政的能力に関する考察



非常時の対応について、前もって具体的に何をすべきなのかのイメージを提案する。

<研究計画の特徴>

・「実務者」の研究への参画

経済学・法学の多岐な分野にわたる研究であるため、バックグラウンドが異なる研究者と実務者が一緒に議論を徹底することで、複雑な政策課題の背後にある論点を明らかにする。

<目標とする研究成果>

(1) 事前と事後の整合性

災害前に行政主体や民間主体の間で合意や了解をしておかなければならない具体的な事項を明らかにしていく。

(2) ミクロとマクロの両立

「非常時において適切な対応を可能とする制度的基盤」を支えるのに必要となる国家財政の関与の範囲について、あらかじめ国民的に合意しておくべき具体的な事項を提起する。